

令和3年度 第2回 尼崎21世紀の森づくり協議会 議事録

日時 令和3年11月24日（水）10時00分～11時30分
場所 尼崎リサーチ・インキュベーションセンター 2階会議室

■資料の確認／事務局

【資料】

- 資料1 「尼崎21世紀の森構想」の取組状況
- 資料2 尼崎の森構想エリア居場所づくりについて
- 資料3 企業向け尼崎21世紀の森づくりにおけるSDGs推進ガイドブックについて

【参考資料】

- 参考資料1 尼崎21世紀の森づくり協議会設置要綱

■協議会会長選出

■会長開会挨拶

尼崎21世紀の森では、生物多様性及び県民の参画により森づくりを行う先進的な取組が進められてきた。これは日本中に自慢できる取組であると思う。一方、最近、マイクロプラスチックによる海洋汚染が話題となっている。海の環境をどうするのかということである。これまで「里山イニシアティブ」の理念のもと里山での活動はよく紹介されていたが、横浜では「里海イニシアティブ」の理念のもと、海でのワカメ栽培による水質浄化を実施しているNPOの活動が紹介されていた。このように山から海まで各種の取組みが行われている。今後、廃プラスチックや温暖化、CO2削減の問題に向け、尼崎21世紀の森づくりにおける取組みも重要となってくる。

また、本日の朝刊の一面にフランスでの犬・猫販売が禁止される記事が掲載されていた。日本では動物の幸せ（アニマルウェルフェア（Animal Welfare））をどうするかという動きが遅れている。例えば、ヨーロッパではケージ飼いのニワトリが生んだ卵は、販売できない、つまり食べられないようになっている。これから植物から動物まで生きものを大切にする動きが広がるのではないかと考えている。

このような意味で尼崎21世紀の森づくりは、みなさんといっしょに色々と先進的な取組を楽しくできる実験の場と考えている。

■報告事項 「尼崎21世紀の森構想」の取組状況

○資料説明（事務局）

資料1 「尼崎21世紀の森構想」の取組状況をもとに、以下の内容を事務局より説明。

- 1) 令和3年5月以降の主なイベントについて
- 2) 緑も水辺も育む賞について

○意見交換

会長 : 今の報告に関してもう少し補足をお願いしたい。

事務局 : 尼崎スポーツの森における東京五輪事前合宿アスリート歓迎イベントは、海外選手に好評であった。来年度世界水泳福岡大会においても同様の事業を実施予定である。その際、尼崎の森中央緑地に選手を招き、彼らのSNSで世界中に尼崎21世紀の森づくりを発信してもらうよう企画中である。

会長 : コロナ禍において色々なプログラムを実施するなど、関係者のみなさんは非常によく取組まれている。そこでコロナ禍の状況の中で実施した取組み実績を、例えば「コロナ禍で学んだこと」等のテーマでまとめておくことも必要ではないか。

■協議事項 (1) 尼崎21世紀の森構想エリアにおける居場所づくりについて

○資料説明 (事務局)

資料2 「尼崎21世紀の森構想エリアにおける居場所づくりについて」をもとに、事務局より説明。

○意見交換

委員 : 昨年度、本協議会の委員に就任し、尼崎中央緑地がすばらしい所であることを知った。そこでここをもっと活用できないかと考え、尼崎市の担当者に尼崎の森中央緑地や、かやぶき民家をパンフレットで紹介した。コロナ禍で怖くて外出はしづらかったが、いつまでも怖がってはいけなと考えている。地域のこどもから高齢者まで、年に何度かは尼崎の森中央緑地へつれていきたい。尼崎市の地域課担当にも本日の資料などを示し、情報を広げていきたい。尼崎21世紀の森の行事予定を知るにはどんな経路で把握すればよいか。

事務局 : HPやチラシ等で情報発信を行っているが、パソコンやスマートフォンで確認するなどの手間がかかる面もあり、パソコン等を利用しない方には、情報が届きにくいことも多い。委員には様々なイベント情報を直接お渡しするなど、別途提供させていただく。

委員 : 尼崎の森中央緑地における「日常以上、イベント未満」などをテーマにした試みは、すごく良いことであると思う。一方で、もっと公園側が何もしないしかけもあるかもしれない、例えば、素晴らしい日常という趣旨で、遊び道具を貸し出す等の工夫もあると思う。様々なグループのリーダー等との密接な交流や信頼関係を築いて、利用に関する改善点などについて意見をもらい、尼崎の森中央緑地ならではの遊びを、自ら楽しめる状況を作り出すなどできれば、受け入れる公園側の負担が少なく取組も継続できる。有馬富士公園でも遊び道具を貸し出す屋台を準備したり、絵本を貸し出して

いる。絵本は、読み聞かせ等はしなくて置いておくだけで利用してもらえ
る。

公園の特性として、プログラムを実施するだけではなく、居心地の良い空間
をつくることも大事であると思う。

会長 : 公園を利用してもらうには、細やかな世話をするだけでなく、邪魔しない程
度の対応も必要なのかもしれない。

委員 : イベントについて、主だったものの情報を提供いただければ、可能な範囲で
当社のツイッターなどのSNSで情報発信の協力を行うことができる。

委員 : 森の会議で企画運営を行った尼崎ミステリーサークルズは、遊具を貸し出す
ためのワゴンをつくる取り組みを行った。利用者に自由に活動してもらえる
環境を整えるなど、よい方向に進んでいる。「尼崎21世紀の森構想エリア
における居場所づくり」に関しては、障がい者団体等の指導者を森の会議に
招き、必要な事項を聞くなど対応していきたい。

会長 : 尼崎の森中央緑地では難しいかもしれないが、幼稚園が有料でグラウンドを
借り受け、園庭代わりにしている例がある。

また、高齢化社会のため、認知症患者に対してGPSを貸し出すなど安全に
公園を利用できるスキームを考えると良いかもしれない。県のヘルシーパー
ク、ヘルシーピープルと関連づければよいと思う。

また、公園での道具の貸出について、日本の対応は遅れている。アメリカの
公園では、色々な道具を貸し出しできる収納倉庫を設置しており、利用者
がいちいち持参するより公園で貸し出すことで合理的な対応を行っている。尼
崎の森中央緑地も考えてみてはどうか。

■協議事項(2) 企業向け尼崎21世紀の森構想づくりにおけるSDGs推進ガイド ブックについて

○資料説明(事務局)

資料3 「企業向け尼崎21世紀の森構想づくりにおけるSDGs推進ガイドブック
について」をもとに、事務局より資料説明。

○意見交換

委員 : NPOと連携し、尼崎の魚を活用した子ども食堂のイベントを実施した。コ
ロナ禍以前は尼崎の森中央緑地でフェス開催により賑わいを創出してきた。
今後、尼崎の森中央緑地に来園したくなるようなグランピングや市民菜園、
花の庭園、ドローンの飛行教習場などがあれば良いのではないか。また、企
業のレクリエーションの場やこども園による活用なども考えられる。また、
SNSや企業連携などで情報発信すれば、もっと多くの人に来てもらえる
と思う。

委員 : 商店街のウォーターサーバーの設置は尼崎市が進めているのでしょうか。

事務局 : 尼崎市経済環境局の事業で設置している。

委員 : 尼崎市が500円で頒布しているマイボトルが好評であるが、ウォーターサーバーの設置個所が少ない。もっと増えれば、利用価値も向上し、SDGsに貢献できると思う。

委員 : ウォーターサーバーは尼崎市経済環境局環境創造課が進めている事業である。市役所本庁舎、各地域プラザ等の公共施設に無料給水器を設置しSDGsの取組を広げていこうとしている。市民の利用を通じペットボトル削減に貢献していきたいと考えている。ウォーターサーバーの設置に関するPRにはまだまだ課題はあるが、マイボトルが好評ということで、これらの取組は広げていきたいと考えている。

事務局 : 尼崎の森中央緑地でドローンの飛行に関する希望は多いが、県立公園としてドローンの使用は禁止されている。特定の条件をみたせば可能であるが、練習場としては利用できない。
菜園については、古民家周辺で野菜等を栽培しているが、環境学習の場として運営しており、自由な利用はできないものとなっている。また尼崎運河において尼崎運河〇〇クラブの中学生等が運河沿いの植栽帯に菜種を栽培し、菜種油をつくっているが、まだまだ農地として利用はしておらず、今後検討していきたい。

会長 : ウォーターサーバーについては関西広域連合環境保全委員会でも議事にあがっており、行政機関の設置が少ないと言われている。県でもさらに設置促進が求められている。また、これに関連して、電気自動車のEV充電器についても、同様に対応していく必要がある。電気自動車、燃料電池車の利用を見据え、長期的に県立公園がどうあるべきかを考えた施設整備が必要ではないかと考える。

委員 : 尼崎21世紀の森づくり自体が壮大なSDGsである。企業の方とは、企業の枠を超えて、自由に企画できる場があると面白いのではないかと考える。播磨の事例であるが、プランターなどでホップを育て、ビールをつくっているケースがある。尼崎の森中央緑地でも在来種のホップを育て、地ビール醸造など楽しい企画を実施するのも良いのではないかと考える。それは色々な人に尼崎の森中央緑地を知ってもらって、100年の森づくりを目指す人材を育てていくことにつながるのではないかと考える。

委員 : 尼崎運河で10年前からSUPの活動をしている。コロナ禍以前は、夜の運河でカラオケを行うチャネルフライデーなど楽しみながらできることをやってきた。SUPや船に乗り水面に近づくことで、尼崎に川や海があることが実

感できると思う。このような機会を増やすことで、尼崎21世紀の森づくりに貢献できるものと考えている。運河を見ているだけでは分からないので、是非船を走らせる事業に取組みたい。多くの方に乗っていただければ、尼崎南部の活性化につながるのではないかと考えている。

会長 : 運河の他の取組事例として、尼崎市魚釣り公園の指定管理はうまく行われている。駐車場の混雑具合をみても以前とは異なっていると感じる。

会長 : 楽しい取組は非常に大事であるが、なぜSDGsに取り組む必要があるのかを特に臨海地域の中小企業などに示していくことも必要である。既に大企業ではSDGsに関する環境リポートを作成し、公表している。その理由として、SDGsに取り組まなければ融資の対象とならないためである。SDGsの取組みは、企業の事業計画にメリットがあるとの認識を持ってもらうことが大切である。

最近の講演で求められるテーマが、「ESG投資」、「SDGs」、「環境」である。このことから企業が尼崎の森に関わると楽しみながら、収益につながるという展開にしていくべきであると考え。尼崎21世紀の森で活動できるSDGsにつながるメニューを用意し、参加した場合、協議会で認定するようなしくみづくりまでできれば、さらに企業のメリットにつながると感じてもらえると思う。

神戸市では、約20年前からISOの代わりに神戸市独自の認証評価システムであるKEMS(神戸環境マネジメントシステム)を実施している。神戸市は、KEMSを企業評価の一基準としている。このくらいの迫力で、21世紀の森から世界にSDGsを発信してく、SDGs尼崎21世紀の森版ができれば、面白くなる。

■閉会

以上